

清流の国ぎふ

令和 6 年度

ちょっといひ話



日々の生活の中で、ほんの少し相手のことを思ってた「言葉」「行動」に、まわりの空気が温かくなったという経験はありませんか。また、あなたがつらかったとき、苦しかったときにかけられた「言葉」や「行動」が励ましになった経験はありませんか。

このような身のまわりで経験した心温まる出来事を「ちよっといい話」として、令和6年6月から9月上旬にかけて募集したところ、小学校13校、中学校11校、高等学校4校、特別支援学校1校の他、一般の方からの応募も含め、441作品を寄せいただきました。そこには、

- ・正直、誠実、責任、勇気
- ・友情、信頼、献身
- ・克己、忍耐、努力
- ・思いやり、絆
- ・尊敬、感謝
- ・家族愛
- ・命の尊重

といった思いが込められています。

そうした中から、80作品を紹介します。

人を思いやる心や人と人とのつながりを感じていただき、県民一人ひとりが、共によく生き合う力をはぐくむ機会となれば幸いです。

【おへぐ】

【小学校】

はじめてのラジオたいそう

・
・
1

やさしいパパ

・
・
2

ぼくのはんちよう

・
・
3

しゅわ

・
・
4

ありがとう

・
・
5

せんせいのあかちゃん

・
・
6

おにいちゃん

・
・
7

おねえちゃんまっけたよ

・
・
8

そんなときもあるよね

・
・
9

おおきくなるといっことは

・
・
10

あしたのじゅんび

・
・
11

ぎゅうをしてくれる

・
・
12

おかあさんに、マラソンでかった

・
・
23

あかちゃんうらやましいなー

・
・
24

おやつ

・
・
25

やさしいお姉ちゃんねえ

・
・
26

やればできる

・
・
27

気持ちきもを大切たいせつに

・
・
28

ひいおばあちゃんのえがお

・
・
29

おばあちゃん

・
・
30

当たり前あまねだったことがなくなった時とき

・
・
31

お母さんかあの読み聞かせよみき

・
・
32

ひいおばあちゃんのぞうきん

・
・
33

「大好きだいすだよー!」

・
・
24

くらべなくていい

・
・
25

私もへアドネーションを

・
・
26

可愛い弟が生まれて、嬉しい涙が出てきたよ

・
・
27

あいさつは元気の元

・
・
28

あこがれのお父さん

・
・
29

今度はわたしの番です

・
・
30

りょうこうをしていたら

・
・
31

「ひみつ」の時間

・
・
32

すてきなお盆

・
・
33

思いやりの心

・
・
34

やさしい友達

・
・
35

お店屋さんで

・
・
36

お兄ちゃんにい

・
・
37

助けてもらった話たす はなし

・
・
38

ちいきの人のあいさつひと

・
・
39

「こちらこそ」「ありがとう」

・
・
40

お母さんのごはんかあ

・
・
41

曾祖母と過ごす日そつそ ぼ す ひ

・
・
42

僕の学年は思いやりのかたまりだぼく がくねん おも

・
・
43

「ありがとう」と「ありがとう」

・
・
44

おじいちゃんの日おじいちゃんの日

・
・
45

県外からきたお客さんけんがい きやくさん

・
・
46

僕のかわいい応えん団ぼく おう だん

・
・
47

【中学校】

おじいちゃんの成長記録

・
・
48

高齢者さんへのあたたかい気持ち

・
・
49

おじいちゃんからの贈り物

・
・
50

ボランティア

・
・
51

弟はおもしろい

・
・
52

ごみ拾い

・
・
53

目に見えない会話

・
・
54

つるの折り紙

・
・
55

勇気ある友達の良い姿

・
・
56

無言のあたたかさ

・
・
57

永遠の友との約束と共に世界へ

・
・
58

陰の人

・
・
59

夢ゆめをくれた叔母おばへ

・
・
・
60

地域ちいきの方々がくれる温かい言葉あたたかいことば

・
・
・
61

言葉ことばの力ちから

・
・
・
62

新しい命あたらひいのちの誕生たんじょう

・
・
・
63

大好きだいすなマカロン

・
・
・
64

居場所いばしよ

・
・
・
65

挨拶あいさつ

・
・
・
66

幸せしあわせを運はこんだ、あの日ひの電車でんしゃ

・
・
・
67

タンポポと妹いもうと

・
・
・
68

友達ともだち

・
・
・
69

優しい友達やさしいともだち

・
・
・
70

お先おきです

・
・
・
71

新聞屋のおじいさん

・
・
72

【高等学校】

国籍は違っても…

・
・
73

知らないおじさんありがとう

・
・
74

さりげない助け合い

・
・
75

あいさつ

・
・
76

毎日出会う地域の方

・
・
77

私の妹

・
・
78

【特別支援学校】

ぼくでもかわれる

・
・
79

【一般】

四歳児の願い事

・
・
80

はじめてのラジオたいそう

ぼくのおじいちゃんは、「ーちゃんが
しょうがくせいになつたらいっしょにラ
ジオたいそうにいける。」とよろこんでい
たけど、きょねんなくなりました。はじめ
てのラジオたいそうはおばあちゃんとい
きました。とちゅうからおばあちゃんのあ
しがおそくなりました。おばあちゃんは
「じいちゃんがないから、であるかなく
なつたからかな。」といいました。ぼくは、
おじいちゃんのかわりに、おばあちゃんが
しっかりあるけるようにしたいとおもい
ました。



やさしいパパ

やすみのひる、パパとママと三さんにんできつさてんにいきました。かえるとき、そとにでたら、まえからくるまいすのひとがきました。あとからでてきたパパは、そのひとがなかにはいいやすいように、ドアをずっともっていてあげていました。「ありがとうございます。」「いえいえ、とんでもありません。」「そうしているパパがとってもすごいなとおもいました。わたしのパパはすてきでした。

わたしも、そんなひとになりたいです。



ぼうのはんちようひ

ぼうのつうがくはんのはんちようは、とてもやさしいです。ぼうがつかれてゆくりしかあるけないとき、てをつないでいっしょにあるいてくれました。すいとうのひもがとれたときや、いっしょだやね、

「だいじょうぶ。」

といってくれました。シャトルランのあとにも、やさしくえをかけてくれました。

やさしいはんちようひについて、これからあんぜんにがつこうまであるきたいです。



しゅわ

ぼくは、おとうさんに「しゅわってなに？」ときました。「いえではなすことができないひとは、しゅわをつかつてはなすよ。」とおしえてくれました。ぼくは、しゅわでじぶんのなまえをおぼえました。かぞくにみせると「すい。」とほめてくれました。もっとたくさんやしゅわをおぼえて、いろんなひとはなしをしてみたいとおもいました。



ありがとう

ぼくのは、もうすぐ90さいになるよ。

それでも、いまでもしごとをしているよ。

だからぼくは、あそびにいったとき、じのかたをたいてあげるよ。

じのかたは、かたいからたいへんけど、じじが、「きもちいいーありがとう。」と、いつてくれるのがうれしいから、ぼくはまた、じじのかたをたいてあげるよ。



せんせいのあかちゃん

がくどうに、ぼくのだいすきなせんせい
 があります。このまえ「せんせいのおなかの
 なかにあかちゃんがいる。」とおしえてく
 れました。ぼくはうれしくてすぐに、おめ
 でとうとかいたてがみを、せんせいにわた
 しました。すると、せんせいがすこしうる
 うるしながらよろこんでくれました。ぼく
 がうれしかったのに、せんせいもうれしく
 なってくれました。げんきなあかちゃんが
 うまれたら、またせんせいとたくさんあそ
 びたいな。



おにいちゃん

ぼくのおにいちゃんは、おじいんぼうで
さみしんぼうです。

でも、なつやすみにおにいちゃんとおか
あさんとぼくで、じてんしゃにのってでか
けたとき、おおきなだんさがあって、ぼく
がころびそうになりました。そのとき、う
しろからおにいちゃんが、

「だういもいびん。」

といってくれたよ。たまには、やさしいと
きもあるよ。



小学校生

おねえちゃんまつてたよ

おねえちゃんがおとまり会^{かい}に行^いったと
きのこと。わたしは「Ｙちゃん、今日^{けふ}かえつ
てくる?」と、何回^{なんかい}もきいた。「まだだよ。か
えってくるのは、あつてだよ。」とお母^{かあ}さ
んが教^{おし}えてくれた。次の日^{つぎのひ}、また、「Ｙちゃ
ん今日^{けふ}かえってくるの」ときく。「まだだ
よ。あしただよ。」と、お母^{かあ}さん。やっとＹ
ちゃんがかえってくる日^ひになった。ドキド
キしながらバスをまつていたら、おねえ
ちゃんが、「Ｓちゃん。ただいま。」と走^{はし}って
きた。「はい。これ、Ｓちゃんにおみやげだ
よ。」とジュースをくれた。Ｙちゃんも、早^{はや}
くわたしに会^あいたかったんだなって、うれ
しくなったよ。



小学校生

そんなときもあるよね

わたしには、おとうとがいます。まだ小さいので、なくことがたくさんあります。

あるひ、ほいくえんにいきたくなくてな
っていたおとうとが、

「そんなときもあるよね。」

とこえをかけました。すると、おかあさんが「とつてもすてきなことばだね。」と、うれしそうにいつてくれました。ないたり、しつぱいしたりしているひとがいたら、「そんなときもあるよね。」とこえをかけてあげたいです。



おおきくなるっていいのは

わたしは、おさらをはいべます。じょうりもてつだえます。ひとりでおきがえできます。でも、かんじがかけません。くるまをうんてんすることができません。ふくをかうこともできません。いつかひとりできるようになるために、とうちゃん、かあちゃんは、わたしがなんでもできるようになるために、いつもみてくれています。おおきくなったら「ありがとう。」といえるよ。うなわたしになりたいとおもいます。



あしたのじゅんぴ

わたしは、ねるまえにあしたのふくを
じゅんぴします。そのとき、ほいくえんの
いもうとのふくもじゅんぴします。あさお
きたら、ふたりでいっしょにきがえます。
おかあさんも、じゅんぴをします。
ふたりできがえていると、おかあさんは、
「じゅんぴとおきがえ、ありがとう。」

といってくれます。わたしは、きょうもい
いきもちでがっしりいきます。きょうの
よるは、どんなふくにしようかな。



小学校生

きゆうをいっけねる

ママはぼくがないうちをきいて、きゆう
をしてくれます。いいきもちになっ、な
みだがとまります。



おかあさんに、マラソンでかった

ぼくは、ようちえんのとき、おかあさん
とおや子マラソンにでたことがある。その
ときは、おかあさんがぼくのはしるペース
にあわせてくれた。

このあいだ、ひさしぶりにおかあさんと
マラソンをした。すると、ぼくが二かいも
かっちゃった。すぐくうれしかった。おか
あさんに「はしるのはよくなったね。」「お
かあさんもうかてないわ。」「と、いわれて、
ぼくはとてもうれしかった。



あかちゃんうらやましいなー

このまえ、おかあさんのともだちのあかちゃんをみにいきました。ちっちゃくてかわいかったけど、おかあさんがあかちゃんばかりかわいがるので、「ずるいな。」と思いました。おうちまでがまんしたら、だっこしてくれました。ひさしぶりにだっこをしてもらってうれしかったです。おかあさんは、「ちよっとおもたくなったね。」といいました。わたしは、ちよっとはずしかったけどおかあさんは、なぜかすこしうれしそうでした。



おやつ

おかあさんが、赤ちゃんをうんで、にゅ
ういんしているときのこです。わたしの
家で、おやつをたべおわったときに、いも
うとのWちゃんが、おやつでたべたピー
ナッツを、ティッシュにくるんでおかあさ
んにあげようとしていました。そのようす
を見て、みんなでかんがえて、おかあさん
はよろこぶと思うけど、今、たべられない
から、メールでおくることになりました。
そして、しゅくだいがおわったあと、おみ
まいにいったとき、おか
あさんがよろこんでい
ました。よかったです。



やさしいお姉ちゃん

かぜのあと、せきだけがよる止まらない
 日がつづきました。その日も中なかにせきが
 止まらなくなりました。ねむたいのになか
 なかねむれません。すると同じへやでねて
 いたお姉ちゃんねえが

「いっしょにねようか。」

と言いってくれました。おふとんに入はいるとわ
 たしをとんとんしてくれました。あん心しん
 て、すぐにねむれました。自分じぶんもねむたい
 のにいつでも人ひとにやさしくできるお姉ねえ
 ちゃんはずいと思おもい
 ました。



やむを得る

おかあさんは、ほぐに「やむを得る。」とわかってきます。ほぐは「できる。」というたえです。そうすると、できなかつたこともなんでもがんばるいじがでるのです。

まだやってもいないのに、できないとおもってしまつぽくを、がんばる気もちにしてくれる、「まほうのいじほ」です。



気持ち大切に

妹と休みの日によくケンカをしますが、
お母さんと話して考えがちがったら話し
合いをすることにしました。

自分の気持ちばかりを言わないで、妹に
も、どうしたいか、ちゃんと聞いてみるこ
とにしました。

相手の気持ちも大切にして、話し合いを
するとケンカが少なくなった気がします。



ひいおばあちゃんのえがお

ぼくは、遊ぶためにホワイトボードを買ってもらいました。耳のきこえにくいひいおばあちゃんが、「それをかして。」と言いました。そして「今日は来てくれてありがとう」と書いてくれました。

ぼくは、ひいおばあちゃんが見やすいようにひらがなを使ったり、大きく書いたりくふうして返事を書きました。

その様子を見ていた家族は、ひいおばあちゃんのうれしそうな顔や相手を思っている姿に書いているぼくの姿に幸せを感じているよかったです。

ありがとう



おばあちゃん

わたしは、おばあちゃんのおたん生日
 や、けいろつひの日に毎年お手紙を書きま
 す。手紙にはかならずおばあちゃんのが
 おえをかくようにしています。それをわ
 すとおばあちゃんはうれしそうに「あり
 とう。」と言ってくれます。次におばあ
 ちゃんの家に行くと、その手紙をかざって
 ています。わたしが小さいときから書
 きたものがたくさんかざられているの
 を見ると、うれしくなります。



当たり前だったことがなくなつた時

学校から帰ると「おかえり。」と言つてくれたり、となりで色ぬりをしているとどんな色か教えてくれた私のおばあちゃん。二年生の冬にお空へたび立ちました。いなくなつてから、今までは当たり前だったことがなくなり、さみしい気持ちが大きくなりました。また、「キレイ。」って言わなければよかったとこつかいしました。これから、おばあちゃんのことをわすれないように、身近な人を大切にやさしくしようと思います。



お母さんの読み聞かせ

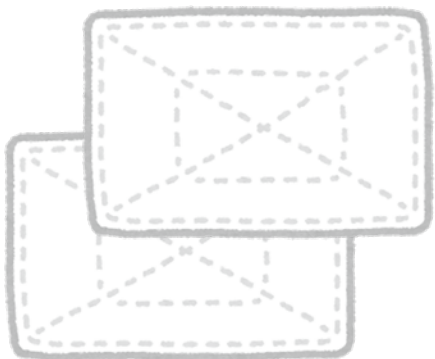
わたしは、お母さんによち園のころから夜ねる前に、本の読み聞かせをしてもらっています。毎日の習かんになつていので、本を読めない時があると、さみしい気持ちになります。本を読んでもらつている時、本の世界に入りこめるので、とても楽しいです。あとお母さんが、ときどき半分ねながら読んでくれます。そういう読み聞かせも大好きです。

わたしは、お母さんのおかげで本が好きになりました。いつも読んでくれてありがとう。



ひいおばあちゃんのこと

今年の一月に、ひいおばあちゃんが99歳
 いでなくなりました。夏休み明けに持って
 行くぞうきんは、いつもひいおばあちゃん
 がぬっていてくれました。ひいおばあちゃん
 は、なくなる前まで、ずっとそのぞうき
 んをぬっていました。今年も、わたしと妹
 は、そのぞうきんを学校へ持って行きま
 す。そいでぞうきんを使う時には、ひい
 おばあちゃんを思い出して、感しやしなが
 ら、そうじをしたい
 と思います。



小学校

「大好きだよー!」

わたしの家では、夜ねる前にお父さんやお母さんにぜったいに言う言葉があります。「大好きだよー!」この言葉は小学生になる前からずっと言ってきた、くせがついています。四年生になってこんなことを言うなんて、はずかしいけれど、これはわたしと家ぞくを、つなげていると思います。



くぐり抜けていこ

おばあちゃんと話はなしている時とき、わたし

「おばあちゃん。わたしは計算けいさんが苦手にがてだけ

ど、友達ともだちは計算けいさんがとくいでとても速はやいか

ら、どうしたら友達ともだちみたいになれるか

なあ。」と相談そうだんしました。するとおばあちゃん

んが言いいました。「どうもしなくていい。」

「あなたはそのままでもいいんだよ。」と言いっ

てくれました。その後あとから、わたしわたしの心こころの

中なかは安心あんしんしました。



私もヘアドネーションを

今年の始め、ヘアドネーションのことを知った。「男子でもできる」という新聞記事に、中学生の男子が二年半も伸ばしていたかみを、医りよう用のウィッグに使ってもらうために切ったという内容が書かれていた。

私は、長いかみが大きすぎで、長く伸ばしているが、切った後は、病気の子たちのために役立ててほしいと思っている。また、男子だからダメとか女子だからいいという決めつけた考え方や見方に気をつけたと思った。



小学卒

可愛い弟が生まれて、嬉しい涙が出てきたよ

私は、ママ、パパから「大事な話があるからすわって。」と言われました。私は、何？何？と思っていたら、「ママのお腹に赤ちゃんがいるんだよ。」といわれました。私は、嬉しすぎて、ビックリしすぎて、嬉しい涙が出てきました。十ヶ月たつと、とうとう弟が生まれてきました。そしてあまりに可愛すぎて感動して、また嬉しい涙が出てきました。今は、弟と、楽しく、くらしています！



あいさつは元気の元

わたしは朝起きたらすぐに階段を降りて、家族の人に挨拶をしています。理由は、図書館の本に「あいさつは元気の元」と書いてあり、家族や見守りの人などに挨拶をして、みんな元気で一日をはじめてほしいと思ったからです。挨拶をすると、相手も自分もうれしい気持ちになるんだなと思いました。他にも、仲良くなるきっかけにもなったり、笑顔でいられるので、挨拶っていい言葉だなとすごく思いました。



あこがれのお父さん

家族と駅にいた時、目の見えない方が杖
 をついて歩いていたら。その方は店で、「すい
 ません。水ください。ここはお店じゃない
 のですか？」と話していた。でも周りの人
 達は誰も足を止めない。その時「店の前で
 すよ。中までご案内しますね。かたにつか
 まってください。」と言った人がいた。お父
 さんだ！お父さんはその方を水の置いて
 あるところまで案内していた。その方は何
 度も「ありがとう。」と言っていた。ぼくも、
 お父さんみたいになりたい。



今度はわたしの番です

わたしには二人の姉がいる。わたしが低学年のときは、二人の姉と登下校。わたしが中学年のときには、真ん中の姉と登下校。そして今は、一人で登下校。

最初はとても心細かったけれど、今では姉が助けてくれたように、低学年の子たちのかばんを持ってあげたり、折りたたみのかさを広げてあげたりして、自分が助けてもらってうれしかったことを、これからも続けていきたいです。



りょうをしたら

家族でりょうに行っていた時に、家族
みんなで写真をとるになりました。家
族の内一人は写真をとる人にならないと
れないので、家族の内の一人がとる人
なって、とうとうしていた時、近くにいた
外国人さんが、「写真をとりましたよか？」
とえいごで話しかけてきました。「えいご
だから分からない。」となっていたら、スマ
ホでほんやくしてくれて、そのあと写真を
とってくれました。とってもやさしい外国
人さんだなと感じました。



「ひみつ」の時間

父^{ちち}が亡^なくなって〇市^しに引^ひ越^こしました。
ある日^ひ、室蘭^{むろらん}で通^かった小学^{しょうがく}校^{こう}のク^くラ^らス担^{たん}任^{にん}
のW^{せんせい}先生^{せんせい}から電^{でん}話^わが^かか^かつて^きま^した。
「H^まさん、室蘭^{むろらん}の小学^{しょうがく}校^{こう}に遊^{あそ}びに^おい^で。
待^まつて^いる^から^ね。」そ^して、昨^{きの}年^{ねん}の夏^{なつ}休^{やす}
み、父^{ちち}の墓^{はか}参^まり^いのついでに室蘭^{むろらん}のT^{しょうがく}小学^{しょうがく}校^{こう}
に^よる^こに^なり^まし^た。W^{せんせい}先生^{せんせい}が、「ひみ^つ
つ」とい^う時^じ間^{かん}を作^{つく}つて^く
れ^てい^て、み^んな^に秘^ひ密^{みつ}に
し^なが^ら会^あう^こと^がで^き
ま^した。み^んな^で、泣^ない^た
り^{わら}笑^{わら}つ^たり^しま^した。



すてきなお盆

今年の夏、初めてお墓まいりをして、お盆の意味を知りました。お盆とは、感謝の意をこめて、ご先祖様のたましいをおむかえして供養をすることです。

家族みなでお墓周りの草取りをして、お花をそなえて、線香をあげました。なつかしい話をしながら、手を合わせました。今生きているばかりと、亡くなったご先祖様をつなぐすてきな行事だと思いました。



思いやり的心

「いろいろ大変かもやけど、がんばれよ。」わすれられない一言だよ。

ぼくは小さいころに発病した病気がある。何かあった時に、ランドセルにヘルプマークをつけている。ある朝、上級生に

「なんでこのマークつけてるの？」

ときかれ、「しゅんとまどった。理由を言うとした、この言葉がかえってきた。

ぼくは「一言」われて、なみだぐんでしまった。何気ない一言のあたたかさがあるとうれしかった。ぼくも思いやる心をわすれない。



やさしい友達

私が、かえりにつまずいて転んだときに
友達が「太じょうぶ?」「立てそう?」「とやさしく私に聞いてくれて、うれしいな、す
てきだなと思いました。そのあと家と同じ
方向にあるので、家まで私のペースにあわ
せて、ゆつくり、いっしょにしゃべりなが
ら帰りました。そのとき私は、いい友達だ
なと思いました。そして、私もこまづいて
る人がいたら自分から、やさしく、明るく
元気に声をかけてあげたいなと思いまし
た。



お店屋さんで

お母さんの買い物についていった時に、
 おかしコーナーの高い所にほしい物があ
 り、取れなくて困っている子がいました。
 私は、その子が取ろうとしていたおかしを
 取ってあげました。すると、その子はず
 かしそうに、「ありがとう。」「と言ってくれ
 たので、うれしかったし、妹が「お姉ちゃん
 やさしいね。」「と言ってくれたので周りの
 空気が温かくなった感じがして、やってよ
 かった、と思いました。私にとってわすれ
 られない一日になりました。



お兄ちゃん

ぼくには、十四才のお兄ちゃんがいます。お兄ちゃんは、お母さんがいない時に
よくいじめてきます。ぼくには、アレル
ギーがあり、食べ物に気をつけないといけ
ないのだけど、夜ごはんの時に自分が食べ
られるかわからない時に、「これAちゃん
食べられる？」ときいてくれました。それ
までは、いじわるなお兄ちゃんだと思って
たけど、アレルギーのことはちゃんと気に
してくれ、やさしいな
おも
と思いました。



助けてもらった話

ぼくが放課後に友達と遊びに行く時に、
 自転車のスピードを出しすぎて川に落ち
 たことがあります。ぼくはビックリしてパ
 ニックになりました。また、自転車を自分
 一人では持ち上げることができず、とても
 困りました。その時近くを通った中学生が
 川に入って自転車を持ち上げてくれました
 た。服やくつがぬれることもかまわず、自
 ら川に入って助けてくれました。とてもう
 れしかったし、ぼくには中学生がヒーロー
 にみえました。



ちいきの人のあいさつ

私は、毎朝ぶんだんで歩いているときに、市役所の人やちいきの人に、「おはようございます。」と、あいさつをします。あいさつをすると今日もがんばろうと思えるからです。そうするとぶんだんの後ろの子も大きな声で、「おはようございます。」と言って一番前の私でも一番後ろの子があいさつをしているのがよく聞こえます。あいさつをしていると、自分も気持ちよくなるし、相手も今日もがんばろうと勇気がでるし、私はあいさつが好きです。



「いちばんその「ありがとう」

私のお母さんは、障がい者グループホームの職員です。休みの日には、お母さんの働いている施設へ一緒にいきます。そこには、色々な障がいがある方がいて、私は役に立とうと思い、理解した上でそんな方達のお手伝いをすこしだけしています。するとたくさんの方に「ありがとう」と感謝を言ってもらえ、こんな私の方が嬉しい気持ちになり、またたくさんお手伝いをし、役に立てるようにしたい気持ちになりました。



お母さんのごはん

ぼくは、平日、おばあちゃんの家でご飯を食べています。休みの日は、お母さんがご飯を作ってくれます。お母さんの焼く目玉焼きが「一番おいしい。」と言ったら、「こんなものでごめんね。」と言いました。けどぼくは、本当に焼き加減が一番好きだから、

「ママの料理が一番好き。」と言ったら、「あじがよい。」と言ってくれたので、ぼくもうれしい気持ちになりました。



曾祖母と過ごす日

「あんたが一番だよ。」と曾祖母は一日に
 何回も同じことを言います。病気ですぐに
 忘れてしまうからです。曾祖母の言葉は僕
 を思うからこそなので、何度も同じ話を聞
 くことは、僕にとっては嬉しいことで、い
 つも曾祖母とニコニコしながら沢山会話
 をしています。分からなくなならないよう
 に、忘れないように、遊びに行くことが僕
 の役目です。



小学卒業

僕の学年は思いやりのかたまりだ

三年生の時、足の骨の病気がわかって、四年生で手術をした。学校へ登校すると、カバンや荷物をクラスの友達が、毎日朝も帰日も持ってくれた。五年生で手術した時、いつでもZoomに入れる様に班の子がスタンバイしてくれていた。移動教室の時、僕の歩くペースに合わせてクラスの友達が進んでくれた。六年生の手術の時には、親友が「手術頑張つて」と手紙とプレゼントをくれた。皆のお陰で、僕はこれまで頑張れた。僕も皆に思いやりを返していきたい。



「ありがとう」と「ありがとう」

家族でショッピングモールに出かけたとき、家庭用洗剤の陳列ダンボールが崩れて、商品が床に落ちて散らかっている所がありました。お父さんが商品を戻し始めると、知らない女の人も一緒になって手伝い始めました。並べ終わると、お父さんが女の人に「お店の人に代わってお礼を言います。ありがとうございました。」と言いつつ、女の人も「こちらこそありがとうございました。」と笑顔で答えました。なんだか嬉しい気持ちになりました。



おじいちゃんのお誕生日

ぼくは、家族といっしょにおじいちゃんのお誕生日祝いにすし屋に行きました。

そのすし屋でおじいちゃんは、おすしやお酒をいしそくに食べたり、のんだりしていました。その笑顔を見ると、ぼくも笑顔が自然にできました。

その笑顔を来年ももう一度見るために、おじいちゃんには元気にしてもらって誕生日を祝いたいです。



県外からきたお客さん

私の祖父母の家はあゆ料理のお店をやっています。お店には県外のお客さんがたくさんきます。先日来たお客さんに、「こは空気もいいし、自然がゆたかで食べものもおいしいものが多くていいね。」と言われました。ふだん生活しているとわすれてしまう住んでいる所のよさを、あらためて知ることができました。もっと本巢のいいところを見つけていきたいなと思いました。



僕のかawaii応えん団

僕の習字教室は猫の「こちよ」が時々ねずみが来ないように教室をパトロールしている。僕は「こちよ」が大好きだ。祖母が先生なのでぼくにはいつもきびしい。いやになっているとふとあらわれる。そして、ひざの上に乗りのどを「コロコロ」ならし、さわらせてくれる。「がんばれー!」と言っているようだ。背中や頭をなでて話しかけ、気分をかえてがんばれている。「こちよ、いつもありがとう。長生きしてね。毎週会えるのを楽しみにしているよ。」



中学年

おじいちゃん、成長記録

毎年まいとし子どもの日こどものひに集あつまって、私わたしと姉あねとい
とこ達たちの身長しんぱうをおじいちゃんおじいちゃんが測はかつてく
れます。

一年前いちねんまえと比べて身長しんぱうが伸のびびていると、嬉うれ
しくなります。みんなそれぞれ成長せいちょうする年ねん
れいが違ちがうので、比ひべるとおもしろい
です。

おじいちゃんおじいちゃんの家の柱はしらには、孫達まごたちの成長せいちょう
記録きこくがきざまれています。

大人おとなになった時ときにみると、ほっこりする
んだらうなと思おもいます。

おじいちゃん、ありがと。



中学年

高齢者さんへのあたたかい気持ち

僕が病院の待合室にいるとき、車椅子のおじさんとそれを押している人が来た。押している人がお手洗いに行ったときに、放送でおじさんが呼ばれた。おじさんが一人で移動できずに困っていたとき、隣にいたお兄さんがすかさず車椅子を押してあげていた。

僕は、この行動を見て、とても心が動かされた。なぜならおじさんを人事と思わず、助けていたからだ。だから僕も、小さいことでも、人の役に立てるようにしたい。



おじいちゃんからの贈り物

僕のおじいちゃんが亡くなって、三回忌が過ぎた今年のお盆に、最後までおじいちゃんが使っていたかばんの中を、家族みんなで見てみることにした。おばあちゃんが、大切に保管してしてくれたものだ。その中の財布にお金が残されていた。おばあちゃんが、「みんなに、おごづかいを残しておいてくれたんやね。」と僕や妹に渡してくれた。僕は思いがけないおじいちゃんからの贈り物に、まだ近くにいてくれる気がして心が温かくなった。



ボランティア

大垣市墨俣町にあるアジサイ街道の
定作業のボランティアに参加しました。私
が活動した時間は少でしたが、一株剪定
するだけでも大変でした。一緒にやっ
てた年配の方が、

「みんなのおかげでまたきれいなアジサイ
が咲くね。ありがとう。」

と言ってくれてうれしかったです。この活
動をしたことで来年見に来てくれた人が
喜んでくれると考えたら

とてもやりがいがあると
思いました。私は人の役
に立つことはすばらしい
ことだ、と思いました。



中学年

弟はおもしろい

ぼくの弟はツンデレで、いつも頭をなで

ようとすると、にげます。

しかし、二人で貯めたお金を使っておも

ちやを買っていいと許可したときは、「今

は許す。」と言って、頭をなでさせてくれま

す。ぼくはそれがとてもうれしいです。



ゴミ拾い

僕は毎日登校中ゴミ拾いをしていました。なぜなら捨てられたゴミを見ると、むずむずして、なぜか、拾いたくなってしまうからです。ある日、僕はいつものようにゴミ拾いをしていました。すると、先生に、「ゴミを拾ってくれたの。ありがとう。」と言われました。その日の昼の放送で、一枚の写真とともに僕が紹介されました。いろいろな人から、「すごい。」や「ありがとう。」などの言葉を言われてとてもうれしく、今もほいっです。



目に見えない会話

通学路には、「ちよつといい瞬間」がいつもある。道路を渡ろうとすると、すぐに止まって、優しい顔で私達が渡り終わるのを待ってくれる。だから、感謝の気持ちを込めて、頭を下げてから、道を渡る。

そこには会話は無いけれど、目と目が合った時、「お先にどうぞ。」「ありがとうございます。」という聞こえない会話が生まれている。短い間だけでも、心がちよつと温かくなる瞬間。そんな瞬間でいつもあふれている。



つるの折り紙

私とおばあちゃんバスにのり、馬^{うま}めへ行った時の話です。

バスへ乗った時、外国人の人が沢山いて、その中に赤ちゃんをつれた人がいました。

バスが発車し、しばらくたった頃、赤ちゃんが泣きはじめてしまいました。おばあちゃんは、かばんから一羽のつるの折り紙を取り出し、赤ちゃんにあげました。すると、赤ちゃんは泣きやんで笑顔になりました。そのことで私はおばあちゃんのような気づかひができる人になりたいと思いました。



勇氣ある友達の優しい姿

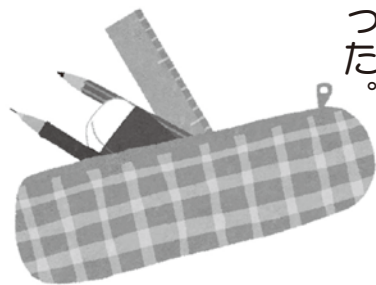
私は、小学二年生の頃から腰が弱く、重い荷物を持ったり、しゃがんだりすることが苦手です。そのせいで参加することが出来ない授業や、学校行事があります。心無い言葉を言われたりすると、疎外感を感じてかなり辛いです。そんな時、一人の友達 は笑顔で話しかけてくれます。嫌な顔ひとつせず、黙って代わりに荷物を運んでくれます。周りの目を一切気にせず、咄嗟に行動できる姿は素晴らしいです。これからも自信をもって、前向きに生きていきます。



中学卒

無言のあたたかさ

親と朝ケン力をしてしまったある日、あまりの怒りで早く家を出て急いで学校に向かった。怒りが込みあげる登校中、あることに気がついた。かばんの中に、筆箱がなかった。とりに帰ろうと思えばできるが、親とけんかしたのもあり、忘れ物とりに行けなかった。あきらめるかと思ったしゅんかん、親が車で私の所まで来て、筆箱を届けにきてくれた。親は「二カッ」と笑い、車を走らせた。無言で受けとってしまっただけ、心の中は温かった。



永遠の友との約束と共に世界へ

僕には長年付き合っていた親友がいます。その親友は昨年転校していきました。ですが、その親友とはずっと約束してきました。ことがあります。それは、「共に世界を旅して色々な景色を見よう。」というものです。時々、僕はどう生きていこうかと迷ってしまいうことがありますが親友との約束を思い出すと、「頑張ろう。」と思えます。これからも色々なことがあると思うけれど、約束を胸に生きていきたいです。



陰の人

私が毎日登下校のときに使う道には、雨が降った次の日に通ると、小さな木がたくさん落ちています。どかしている時間もなく「帰りにどかぞ。」と思って通りすぎます。そして下校のときにその道を通ると、朝にはあったはずの小さな木がどかされています。その出来事は一回だけでなく、毎回あります。誰がやってくださっているかは分かりませんが、とてもありがたいです。私もその人のように陰で行動できる人になりたいです。



夢をくれた叔母へ

私は、昔からマイナスなことを言っばかりで、将来の夢も決まっていませんだした。そのとき、私の叔母が「看護師良いよ。」と話してくれました。看護師で良かったことや困難だったことなど話してくれました。そう話す叔母が輝いて見えました。その時、自分もこの道に進みたいなど、希望が生まれました。全てをあきらめたいという自分から、将来の夢が決まり、前を向いている自分になりました。これから、たくさんの勉強をして、前を向いて自分の道を歩んでいこうと思いました。



地域の方々^{ちいき かたがた}がくれる温かい言葉^{あたた ことば}

私が^{わたし}住^すんでいる結地区^{ゆいちく}の皆さん^{みな}は、「おはよう。」と「いつてらっしゃい。」の温かい^{あたた}言葉^{ことば}でいつも私^{わたし}を学校・部活^{がっこう ぶかつ}へと送り出^{おく}してくれま^{おも}す。学校^{がっこう}に行きたくないと思^{おも}いながら登校^{とうこう}している時^{とき}に、たくさんの人^{ひと}からかけられる温かい言葉^{あたた ことば}にいつも励ま^{はげ}されていま^いす。私自身^{わたし じしん}も、たくさんの人^{ひと}と挨拶^{あいさつ}を交^かわすこの日常^{にちじょう}が大好き^{だいずき}で、毎朝^{まいあした}誰^{たれ}か^かと会^あうのが楽^{たの}しみです。ちよつとした「幸^{しあわ}せ」だけ^{だけ}ど、私^{わたし}にとつて当^あたり前^{まえ}のこの日^{にち}常^{じょうじょう}を大切^{たいせつ}にしたいです。



言葉の力

僕は仲の良い年下の友達からよく相談を受けます。どんな否定的なことも前向きな言葉におきかえて考えるようにしています。

ある日その子のお母さんから「全てを否定せずに受け止めてくれて、『そのままの君で良いんだよ』と前向きになれる言葉をたくさんくれて本当にありがとう。〇〇はいつもその言葉に救われているよ。」と感謝されていることを知りました。嬉しかったです。



新しい命の誕生

八月、我が家に小さな命が加わった。
 2800gの小さな女の子。少し前までは
 姉のお腹の中で動いていたのに、目の前に
 いる。なんだか不思議。初めて抱っこした。
 「小さっ」と思った。そして温かかった。小
 さな命を囲んだみんなが笑顔になった。私
 が生まれた十四年前もこんなふうになん
 なの笑顔に囲まれていたのかな。命の誕生
 に、そして、家族みんなに「ありがとう」の
 気持ちになった。次に会う時には、笑顔を
 見せて名前を呼んでくれるかな。



大好きなマカロン

私は長女なのでよく我慢することがあります。私はマカロンが大好きで、ある日母が三つ買ってきました。食べたかったのですが、その気持ちを抑え、母と妹二人に「食べていいよ。」と伝え、部屋に行きました。すると妹が部屋に入ってきて、手を出してと私に言いました。手を出すと、私の手にはマカロンが一つ乗っていました。驚いて顔を上げると、妹が「いつも私と遊んでくれて、ありがとう。」と言って、ギュッと抱きついてくれました。



居場所

この前お母さんが、家の中で空中ウォークの練習をしていました。私は、それを見て爆笑していました。そうすると笑い声を聞いた家族が、次第に集まってきました。家族全員の笑い声で、家の中が明るくなりました。私の家族は、全員が私の家のドメーカーです。常に誰かのお陰で家の中が明るい雰囲気包まれています。ずっと明るく、楽しい家族。それが、私の一番の居場所なのです。



中学卒

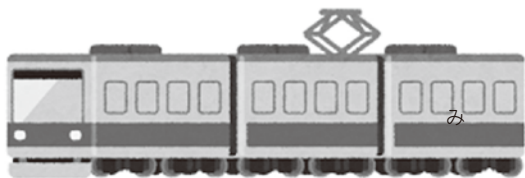
挨拶 あいさつ

わたくし わたしが友達と登校しているときに、毎朝同 まいあさおな
じ場所 ばしょに立つてボランティアで挨拶して あいさつ
くれている方がいます。その方 かたとは毎朝 まいあさ、
顔を合 あわせて挨拶 あいさつをかわしていますが、最 さい
初 しよは「おはよう。」「と言 いわれ、」「おはよう。」「
います。」「と返 かえすだけでした。でも最近 さいきんでは
挨拶 あいさつの後 あとに、「がんばってね。」「氣 きをつけて
ね。」「など なんど「言 いはずしやべるようになって
きて、朝 あさの十秒 じゅうびょうにも満 みたない会 かい話 わですが、
とても嬉 うれしく感 かんじています。



幸せを運んだ、あの日の電車

小さな子ども二人とそのお母さんが電車に乗ってきた。とても疲れているみたいで「座われないの?」と子どもが小さな声で母親に尋ねていた。私も隅に立っており車内は満席だった。その時、二人組の女性が「どうぞ、座ってください。」と席を譲ったのだ。感謝の言葉が聞こえ、子どもたちは座ることができた。降りる駅に着くと子どもたちは「ありがとう。」と笑顔でその場を後にした。その日の帰り道はとても幸せな気持ちで満ち溢れていた。



タンポポと妹

道で咲いているタンポポを、三歳の妹が見ていた。「これはタンポポだよ。」と教えてあげると、妹は、嬉しそうに、キラキラした目でそれを見ていた。

次の日の朝、学校へ行く準備をしているとき、庭先に妹の姿を見つけた。「何してるの?」と聞くと、妹は、「しゃんぽぽー」と言いながら、タンポポがいつぱいに入った袋をくれた。妹のまつすくな成長が、ちよつと嬉しかった。



友達
ともだち

家族でファミレスに行った時の話。後ろ
の席のにぎやかな高校生男子集団が、メ
ニューを片っ端から全部楽しそうに読み
上げていくので、「うるさいなあ」と思って
振り向くと、席に一人だけ目のみえない視
覚障がいのある子が混じっていた。その子
も含めて、みんな本当にすごく楽しそうに
してた。お店を出る時も、電車ごっここのよ
うにその子を真ん中で囲ませて、楽しげに
帰って行くのを見て、「ほんとに友達って
いいな」と思った。



中学卒

優しい友達

私は今年受験生で、行きたい高校に行くにはもう少し勉強を頑張らないといけない。夏休みに友達とたくさん勉強した。私は数学と理科が苦手で、答えを見てもわからなかったとき、一緒にやっていた友達が「大丈夫？手伝おうか？」と言ってくれて教えてもらった。それでも分からず困っていたらその友達がメモ用紙に一から説明を書いたり、絵を使って説明してくれて、すごく分かりやすかった。私はそのことがとても嬉しかった。



お先^{さき}です

おじいちゃんとの会話^{かいわ}がどんどん減^へつて、もうほとんど話^{はな}さなくなつた。そんな時^{とき}、お風呂^{ふろ}から出^でた僕^{ぼく}が「お先^{さき}です。」と言^いつた。そしたら「はい。」という返事^{へんじ}が返^{かえ}つてきた。とてもうれしかった。まだ、会^{かい}話は^わずつとしていないけど、「お先^{さき}です。」「はい。」のやりとりだけは続^{つづ}いている。



新聞屋のおじいさん

いつも登校する時に、小学生や中学生を見守っているおじいさんがいます。小学生の時は登校班なので班が来るまで待っていました。おじいさんはとても優しく、雨が強い日には屋根があるところで待たせてくれたり、寒い日には新聞屋の中に入れてくださり、ストーブの前で待たせてくれたりしました。今では中学三年生になり、時々学校での様子を聞いてくれたりしています。新聞屋のおじいさんのおかげで、朝から楽しい一日が始まります。



国籍は違っても…

私がバイト中のときの話です。韓国から日本へ働きにきていた男性二人が買い物に来てくれた時、日本語が話せず困っていました。私は少し韓国語が分かるので対応したら、すごく喜んでくれました。対応して良かったと思います。その日は終わりました。一週間後ぐらいにまた買い物に来てくれて、この前は全然話せなかったのに「日本語を勉強してきた。」と言い、一生懸命話してくれました。国籍は違ってもお互いのちよつとした頑張りで話せることが分かりました。



知らないおじさんありがとう

野球で試合の観戦のときに、横から涼しい風が吹いてきてとても気持ちよかった。風の通りが悪い所に座っていたので少し不思議に思ったが、そのときは野球に夢中であまり気にしなかった。思い返してみると、隣のおじさんがうちわであおいでいたらしい。私の勘違いかもしれないが、風が明らかに私の方に吹いてきたので、きっとその人が風を送ってくれたのだろう。お礼を言えなかったけど、今も思い返して感謝しています。



さりげない助け合い

私は母とスーパーに行った。母とショッ
 ピングをして歩いていた時に、店員さんが
 商品を落としてしまった。私はすぐさま一
 緒に拾おうとすると、周りにいたお客さん
 も手伝う姿があった。私はそんな行動か
 ら、見て見ぬふりができない心のあたたか
 さと、誰がではなく自分がという、その中
 にある雰囲気嬉しくなった。人を大切に
 する人は自分のことも大切にできると思
 う。お互いが助け合うことが共生につなが
 ると考えた。



高等学卒

あいさつ

高校生になって今までと変わった通学路。朝の景色がガラッと変わったと共に、もう一つ変わったことがある。それが地域の方との関わりだ。いつも登校中に出会うと僕よりも元気に挨拶をしてくださるおばあさんが居て、出会う度に「君のおかげで毎日楽しくすごせるのー!」と言ってくださる。会う度にそう言ってくれて「二」「三」の笑顔を見ながら「こちらこそ」と常に思っています。いつもありがとう。



高等学卒

毎日出会う地域の方

バス停まで歩いていくときに、いつも出会う地域の方がいます。ある日、私は学校を休みました。そして、次の日バス停まで歩いていると、その地域の方が、「体調は大丈夫？」と声をかけて下さいました。きっと、いつも出会うはずの私がいなかったので心配して下さいたのだと思います。声をかけて下さった地域の方の優しさ、あたにかさに朝からほっこりしました。



私の妹

私には十四歳年の離れた妹がいます。いつもはやんちゃすぎて振り回されてばかりです。そんな妹に先日、久しぶりにお菓子 プレゼントしました。現在四歳の妹は少しさせているから嬉しい気持ちを押しさえたように「ありがとう」と小さな声で伝えてきました。いつもは世話が大変で中々純粹に可愛いと思えない私ですが、そういう時に見せてくれる愛らしい態度と表情がやっぱり愛おしい存在だと再認識させてくれます。



ぼくでもかわれる

ぼくは、高校で変わった。勉強もできない人の関わりもできなかったそんな時、福祉の先生の「あなたならできる。失敗をすることでどうする。だから、頑張つて来なさい。失敗しても先生がいるから。」の言葉に支えられ、実習も資格の勉強も頑張れた。前のぼくなら、すぐにあきらめてしまっていたと思う。失敗をしてもいつも相談にのってくれる先生や仲間を支えてもらって、先生のおかげで、「コミュニケーションの大切さを学んだ。ありがとう。」



四歳児の願い事

七歳の長女は難病を患っています。今の
医療では生涯治らない病です。四歳の次女
は、お姉ちゃんが何やら大変な病気になっ
てしまい、涙を流し心を痛めている姿をい
つも隣で見えています。季節は七夕。短冊に
願い事を書いて飾れる場所がありました。
次女に「願い事何書く?」と聞くと、「お姉
ちゃんの病気が治りますように。」「との答
え。その優しい願いを織姫彦星も聞いてい
て、難しい願いだけでも叶えてくれると、お
母さんも信じています。」



令和6年度 ちよつといい話

令和6年12月発行

編集 岐阜県環境生活部 人権施策推進課

〒500-0857

岐阜県岐阜市藪田南2-1-1

TEL 058-272-8250（直通）

FAX 058-278-2615



人権ミナモ

岐阜県環境生活部 人権施策推進課

※この冊子は、法務省委託事業により作成されています。